

「児童館のあり方」に基づく
モデル事業実施報告および取組事例集

(令和 7 年度)

函館市

【モデル事業】

- 1 児童館ランチタイム事業 1
 - ・西部児童館, 鍛冶児童館, 山の手児童館, 日吉が丘児童館,
湯浜児童館, 宮前児童館

【取組事例】

- 1 子どもの意見を取り入れた児童館運営と環境整備 2
 - ・谷地頭児童館
- 2 地域のゴミ拾い「まちピカたいけん」の開催 3
 - ・中島児童館
- 3 こどもボランティア活動「かじボラ活動」の実施 4
 - ・鍛冶児童館
- 4 子ども委員会（ＫＣＣ）の発足 5
 - ・神山児童館
- 5 運動行事の設定 6
 - ・深堀児童館
- 6 関係機関等との情報共有体制の構築 7
 - ・深堀児童館
- 7 中学生の興味・関心を活かしたイラスト教室の開催 8
 - ・湯浜児童館
- 8 「湯浜母親クラブおしゃべり湯浜」の開催 9
 - ・湯浜児童館
- 9 「児童館の庭で野菜を育てよう」の実施 10
 - ・湯川児童館
- 10 開館時間延長における中高生の企画・運営 11
 - ・旭岡児童館
- 11 お楽しみ会（ミニミニ縁日）の企画・開催 12
 - ・大川児童館
- 12 千代田小学校ＰＴＡバザーでの児童館ブースの設置 13
 - ・五稜児童館
- 13 千代田小学校コミュニティ・スクール応援隊と連携したモルッククラブの開催 . . . 14
 - ・五稜児童館
- 14 子どもの意見を取り入れた「ドッジボール大会」に関する取り組み 15
 - ・富岡児童館

モデル事業

1 児童館ランチタイム事業

		分類	新規
モデル児童館	西部児童館，鍛冶児童館，山の手児童館，日吉が丘児童館，湯浜児童館，宮前児童館		
あり方の分類	(ア) 心身の健康増進および知的・社会的能力の向上		
■背景/具体的な内容など	実施時期	長期休業期間	参加人数
のべ81人 児童館での約束事の一つとして、食べ物の持ち込みを禁止しており、これまで午前中から利用している児童に対し、昼食時には一旦帰宅させ、自宅で食事をするよう促してきた。 一方、夏休みなどの長期休業期間は学期中とは異なり、保護者の就業等により、朝から児童だけで留守番をして過ごす家庭もある。そこで、長期休業期間中のみ、自宅以外の安心・安全に過ごすことができる児童の居場所を確保するため、あらかじめ登録した児童に限り、弁当持参による児童館内での食事を認め、一日を通じて過ごすことのできる居場所を提供する「児童館ランチタイム事業」を市内の児童館6館で実施することとした。 【事業実施期間】 ・夏季休業期間(7/26～8/24)の月曜日から土曜日 ・冬季休業期間(12/26～1/14)の月曜日から土曜日 ・学年末学年始休業期間(3/25～4/7)の月曜日～土曜日(予定) 【利用者数】 ・夏季休業期間 利用者数～20人 ・冬季休業期間 利用者数～23人 ・春季休業期間 利用者数～38人			

取組事例集

1 子どもの意見を取り入れた児童館運営と環境整備

				分類	新規
モデル児童館	谷地頭児童館				
あり方の分類	(ウ)子どもの意見の尊重				
■背景/具体的な内容など			実施時期	4～5月・2～3月	参加人数 20～25人
入館する子どもの固定化などにより、入館者数が伸び悩んでいる状況があり、さらに魅力ある児童館を目指して、児童アンケートを行うことを職員間で決定した。 そのために次の5点を大切にした。 1 アンケートの目的を明確にする：「児童が楽しめているか」など改善したいポイントをはっきりさせる。 2 質問内容と形式を工夫する：選択式（○×や5段階評価）自由記述をうまく組み合わせる。 3 集計・分析の方法：グラフ化して傾向を把握したり、意見をカテゴリ別に分類して課題を見つける。 4 改善アクションにつなげる：分析結果をもとに、改善策を具体的に決定し優先度をつけて小さな改善から。 5 結果のフィードバック：アンケートに回答した児童に「改善したこと」を知らせて参加意欲を高める。 年度末にもう一度児童アンケートを実施して、改善の評価を行った。					

2 地域のゴミ拾い「まちピカたいけん」の開催

			分類	新規		
モデル児童館	中島児童館					
あり方の分類	(カ) 民間団体等との連携による児童館の活用促進					
■背景/具体的な内容など			実施時期	10月4日	参加人数	2人
ゴミ拾いを通じて子どもたちに環境美化の大切さや公共の場を大切にする心を育てる機会とし、地域の一員として、ともに住むまちをより良くしようとする気持ちを育むことを目指し計画した。 児童館と町会館が隣接していることから、児童館周りの清掃活動を範囲を広げて行うこととした。 事前に中島町会と打ち合わせし、大変良い取り組みであると賛同いただいた。実際には町会の清掃活動は日曜日に実施しており、子どもたちと一緒に活動するのは難しく、今回は子どもたちだけで土曜日に実施することとなった。町会には集めたゴミを一時保管し処理するところを担当頂いた。 【実施日】10月4日(土) 13:30～14:00 【内 容】児童館前から中島小学校周辺、中島町、中島町会前のゴミを拾った。 【用 具】ポリ手袋、火ばさみ、ゴミ袋 【参加人数】小学校2年生1名、3年生1名、職員2名 参加人数は2名と少数であり、予想よりもゴミが少なかったが、しっかりとゴミを拾うことができたほか、日頃から地域の方が清掃を行ってくれていることに気づききっかけとなった。						

3 こどもボランティア活動「かじボラ活動」の実施

			分類	新規																																					
モデル児童館	鍛冶児童館																																								
あり方の分類	その他																																								
■背景/具体的な内容など		実施時期	4～3月	参加人数	50人																																				
【目的】 鍛冶児童館周辺の清掃や環境整備活動を通して、地域への関心と公共心を育み、主体的に地域に関わる姿勢を養うことを目的とする。 児童館周辺のゴミひろいを年2回の行事として行ってきた。 年に2回にとどまることなく、定期的に子どもたちがよく利用する公園や避難経路である鍛神小学校まで範囲を広げ地域貢献の場としたい。 【参加状況】 <table><tr><td>ゴミひろい</td><td>6月21日・・・7名</td><td>雪かき</td><td>12月4日・・・2名</td></tr><tr><td></td><td>7月12日・・・2名</td><td></td><td>12月5日・・・1名</td></tr><tr><td></td><td>7月17日・・・4名</td><td></td><td>1月13日・・・3名</td></tr><tr><td></td><td>8月14日・・・3名</td><td></td><td>1月20日・・・4名</td></tr><tr><td></td><td>9月11日・・・5名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>9月19日・・・3名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>10月31日・・・5名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>11月6日・・・5名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>11月29日・・・6名</td><td></td><td></td></tr></table>						ゴミひろい	6月21日・・・7名	雪かき	12月4日・・・2名		7月12日・・・2名		12月5日・・・1名		7月17日・・・4名		1月13日・・・3名		8月14日・・・3名		1月20日・・・4名		9月11日・・・5名				9月19日・・・3名				10月31日・・・5名				11月6日・・・5名				11月29日・・・6名		
ゴミひろい	6月21日・・・7名	雪かき	12月4日・・・2名																																						
	7月12日・・・2名		12月5日・・・1名																																						
	7月17日・・・4名		1月13日・・・3名																																						
	8月14日・・・3名		1月20日・・・4名																																						
	9月11日・・・5名																																								
	9月19日・・・3名																																								
	10月31日・・・5名																																								
	11月6日・・・5名																																								
	11月29日・・・6名																																								

4 こども委員会（KCC）の発足

		分類	新規
モデル児童館	神山児童館		
あり方の分類	（ウ）子どもの意見の尊重		
■背景/具体的な内容など	実施時期	7月～12月	参加人数 のべ50人
2024年12月、児童館ガイドラインが6年ぶりに改正され、こどもの権利条約の浸透とともに、昨今は『こどもの意見の尊重』が益々重要なポイント、児童館運営のキーワードとなっている。 神山児童館ではその前から児童館行事にこどもの意見を取り入れようと活動してきたが、今年度、小学生・中学生・高校生（1名のみ）によるこども委員会を立ち上げ、月に一回のペースで、話し合いの場を設け、そこで出た意見をなるべく児童館運営に反映させてきた。 KCCとは、神山；K a m i y a m a こども；C h i l d r e n 委員会；C o m m i t t e e のそれぞれの頭文字をとった略語である。 〔期間〕 7月から12月まで 〔話し合いの場〕 毎月、最終週の木曜日16時から *今年度は作業も含め10回行った。			

5 運動行事の設定

		分類		新規	
モデル児童館		深堀児童館			
あり方の分類		(ア) 心身の健康増進および知的・社会的能力の向上			
■背景/具体的な内容など		実施時期	通年	参加人数	160人
児童館は、子どもの自由遊びを尊重し、子どもが伸び伸びと自分のやりたい遊びができる施設であり、規制なく、使用上のルールに従って過ごすことができる施設でもある。そのような中で過ごす子ども達に、遊びを提案したり、記録に挑戦させたりする機会を作ることにより、みんなで取り組んだり、記録に挑戦したり、応援したりする活動を通して、子ども達の体力の向上や周りの人との接し方なども経験させることができると考え、この活動を設定した。 具体的な内容としては、 - 毎週土曜日に、30分くらいで行う運動行事を設定し、実施する。 - 月ごとに種目を変えながら実施する。 - 積極的に声をかけ参加を促すが、参加は子ども自身の判断に任せる。 - 結果についての記録を書き残し、それを掲示し、意欲化を図る。 【参加者数】 4月：6人，5月：37人，6月：15人，7月：29人，8月：0人，9月：6人，10月：14人， 11月：10人，12月：14人，1月：11人，2月：8人，3月：10人					

		分類	拡充
モデル児童館	深堀児童館		
あり方の分類	(エ) 福祉的課題への適切な対処		
■背景/具体的な内容など		実施時期	参加人数
児童館に来館する児童には、それぞれの個性や置かれている環境がある。その中で、児童館に来館し、多様な年齢の児童や幼児、大人との交流を通して、各種活動に取り組んでいる。子どもたち一人一人の個性を生かした対応や指導などをより適切に行うことができるようにするため、各種関係機関との連携を基にした情報を生かし、より適切な職員の対応や児童館内の環境づくりに努める必要がある。より広く関係機関との連携を深め、「地域で子どもを育てる」ための大切な一機関となれるように努めなければならないことから、以下の取組みを行った。 1 近隣学校や保育所、学童保育所等への参観や幼児や児童、生徒についての情報交換 ① 深堀小学校・深堀中学校・駒場小学校における「コミュニティスクール」への参加 ・各学校の取組について理解する。 ・各学校の授業参観を通して、児童の様子を把握する。 ・必要に応じて、児童館での様子を学校にも連絡し、児童の指導について連携を図る。 ② 函館深堀保育園との連携の推進 ・保育所行事に参加する。 ・児童館だよりの掲示を依頼する。 ③ 学童保育所との連携 ・行事や児童館使用への協力や情報交換 ・児童館だよりの配布			

7 中学生の興味・関心を活かしたイラスト教室の開催

			分類	継続	
モデル児童館	湯浜児童館				
あり方の分類	(イ) 中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり				
■背景/具体的な内容など			実施時期	通年	参加人数
					9 人
1 背景					
本館の利用者の大半は小学生であり、一昨年度は特に 6 年生の利用が多かったことから、中学校入学後の引き続きの利用につなげるため、6 年生に対して中学生になっても利用できる旨の声かけを行っていた。しかし、中学校入学後には、部活動や遊戯室の天井が低い等の理由により児童館の利用頻度は少ない状況が続いていた。そのため、小学生時代に利用していた子どもたちが、中学生になっても継続的に利用してもらうための取組みとして以下を実施した。					
2 具体的な内容					
○ イラスト教室の開催					
・開催日：6 月 2 1 日（土）					
・参加人数：9 名					
・P R 方法：深堀中学校美術部や湯川中学校美術部を訪問し、イラスト教室へのPRを行った。					
・効果：昨年度より3名増の9名の参加者となった。					

8 「湯浜母親クラブおしゃべり湯浜」の開催

		分類	新規		
モデル児童館	湯浜児童館				
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進				
■背景/具体的な内容など		実施時期	通年	参加人数	63人
1 背景					
・児童館まつりやもちつき会などの行事以外へは、なかなか児童館に足をはこんでもらう機会が少ないので、その改善をはかるために本取組みを実施する。					
2 具体的な内容					
・子どもたちのためにできること、児童館へ協力できることを話し合い、実行する「湯浜母親クラブおしゃべり湯浜」を開催。					
・各月の最終木曜日10時30分～11時30分の1時間を実施。					
・本年度は5月22日（11人参加）、6月26日（8人参加）、7月24日（7人参加）、8月28日（7人参加）、9月25日（6人参加）、10月30日（6人参加）、11月27日（6人参加）、2月26日（7人参加）、3月26日（5人参加）の9回を実施した。					
・3月26日現在、のべ63人の参加があった。					
・子どもたちの児童館での遊び等を紹介し、体験することで、児童館への理解を深める。					

		分類		新規	
モデル児童館		湯川児童館			
あり方の分類		(ウ) 子どもの意見の尊重			
■背景/具体的な内容など		実施時期	5月～11月	参加人数	20人
【背景】 ・食育活動の一環として、菜園活動を通して自然に親しみ、身近な野菜を育てることにより子どもたちの五感を刺激していく。 【具体的な内容】 ・子ども達に育ててみたい野菜のアンケートを取る。 ・種・苗を購入し菜園コーナーに植える。草むしり、水やりをしながら観察する。 ・収穫して試食する。					

10 開館時間延長における中高生の企画・運営

			分類	新規	
モデル児童館	旭岡児童館				
あり方の分類	(イ) 中学生および高校生世代の目線に立った居場所づくり				
■背景/具体的な内容など			実施時期	12月3日	参加人数 12人
○ 6～12月まで中高校生の開館時間延長事業が始まり、中高校生の居場所づくりに向けた取組みとして、中高校生の企画・運営による交流を実施した。 ○ 12月3日（水）中学校18時・高校生19時まで夜間延長時間実施日において開催。小学生帰宅時間である午後4時30分から開始した。 ○ 参加者でリーダーの選抜を行い、リーダーが中心となり、全員で意見交換をし、ゲームを決定。話し合いの結果、天下大会となる。その後、天下大会、飲食をしながら交流を深めた。					
【参加人数】 中学生11名 高校生1名					
【当日の内容】					
・ 16：00 リーダー選抜					
・ 16：05 何をおこなうかの意見交換					
・ 16：10 天下大会（柔軟体操・ルール説明・審判も子ども達で決める） 2ゲーム開催					
・ 17：10 図書室にて飲食（フランクフルト・アイスクリーム）					
・ 17：35 参加賞配付					
・ 17：40 終了					

11 お楽しみ会（ミニミニ縁日）の企画・開催

			分類	新規	
モデル児童館	大川児童館				
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重				
■背景/具体的な内容など			実施時期	9月20日（土）	参加人数 のべ33人
日ごろ、児童館を利用している子どもたちの意見を取り入れながら何か行事を企画・参加・実行できるものがないか相談し、児童館まつりよりは規模の小さいミニミニ縁日を開催することにした。 突然の企画・実行は難しいと考え、児童館まつり当日の手伝いをお願いしてこの企画に繋げた。 低学年が多く利用しているため、アドバイスをしながら企画を進めていった。					
○会議は全3回とポスター作り1回の作業					
・1回目会議 5人					
日にち・内容など話し合う					
わなげ・金魚すくい・ガチャガチャ					
・2回目会議 5人					
具体的な内容を話し合う（景品など）					
会議終了後金魚のシールはり作業					
・3回目会議 2人					
景品の数を確認して、買い物に出かける					
チケット作り					
ポスター作り 3人					
・当日 参加者 18人（手伝い7人）					

12 千代田小学校PTAバザーでの児童館ブースの設置

		分類	拡充	
モデル児童館	五稜児童館			
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進			
■背景/具体的な内容など	実施時期	11月15日	参加人数	のべ30人
令和5年度より千代田小学校PTAからのたつての依頼で、児童館のPRや利用の促進を兼ねて千代田小学校体育館に児童館より用意した遊具を運搬し、子どもたちが楽しめる遊びの出前ブースを提供することとなった。全校生徒が少なく、盛り上がり欠ける行事に花を添える役割を果たすのも目的となっている。 今年度は、千代田小学校PTAバザー『友遊ひろば』(10:00～12:00)での児童館ブースを拡充し①母親クラブ会員による食べ物「タコせんべい」コーナーと②児童館職員による遊び「射的」コーナーを設置。いずれも当館で7月に開催した児童館祭りで好評だったものをチョイスし、再現した。 コロナ禍では体験できなかった食べ物コーナーは、準備段階からPTA会長と密に連絡を取り合い、タコせんべいの材料費はPTAの会計から支払い、射的の景品は母親クラブ会計からと折半した。調理に使う電子レンジは千代田小学校から提供されたり、PTAの協力が心強かった。さらに児童館祭りでも調理を担当した母親クラブ会員2名に手伝っていただいたお陰で、大変スムーズに運営できた。手際よく待たせることもなく、タコせんべいが美味しかったと大好評だった。 遊びコーナーも幼児から中学生まで好評で、希望のお菓子の景品をゲットするまでと熱くなり、まるで祭りの屋台での射的にも負けない雰囲気だった。ひとり1回5弾だけのチャンスでは物足りず、しつこく何度も挑戦したいと場所を移動せず居座ったり、他の子どもにもアドバイスを買って出る子どももいた。 また、児童館をアピールする看板および遊びルールの説明などをわかりやすく掲示。机には児童館PRや餅つき会のチラシなども準備し、手に取ってもらうよう努めた。餅つき会参加希望者にはその場で整理券を配った。				

13 千代田小学校コミュニティ・スクール応援隊と連携したモルッククラブの開催

		分類	拡充
モデル児童館	五稜児童館		
あり方の分類	(キ) 世代や団体の垣根を超えた積極的な児童館の活動参加の促進		
■背景/具体的な内容など	実施時期	5月～10月	参加人数 のべ50人
令和6年8月函館市で開催のモルック世界大会に出場するため、母親クラブ会員の有志でモルック・サークル「チーム・マミー」を結成。子どもたちへのモルックの楽しさと競技の普及を目指して、同年5月より3月まで月に1度土曜日午前中に五稜児童館遊戯室にて開催した。 チーム・マミーは、世界大会終了後もモルック競技のスキルを向上させるため、冬季間は五稜児童館の夜間貸館で活動。モルック競技の技術だけではなく、サークル内の結束を図り、更なる努力を怠らなかった。 令和7年度からは千代田小学校コミュニティスクール応援隊と連携し、場所も屋外の梁川公園で開催し、子ども単独だけではなく、親子での参加もアピール。5月から10月の間、月1回土曜日午前11時より開始した。(雨天の場合は、五稜児童館遊戯室にて開催) 10月15日(土)に最終回を迎え、参加者には修了証書を授与し、終了した。6回の開催日はお天気に恵まれ、全て屋外で実施できた。参加者数自体は土曜日の午前中の開催ということもあり、小学生は野球やサッカー等習い事があり、少なかった。 また、昨年3月に初めて開催し、大好評だった「モルック大会」も定期的で開催し、2代目、3代目五稜児童館モルックチャンピオンを誕生させたい。年度末の3月7日(土)に集大成である第2回五稜児童館モルック大会を開催。幼児9人、小学生1～3年生1人、4～6年生2人、一般12人の計24人参加。成績上位3人に賞状を授与。全員に母親クラブより参加賞として景品が贈られた。競技終了後、参加者全員で焼きそばづくりをして会食したのち解散した。			

14 子どもの意見を取り入れた「ドッジボール大会」に関する取り組み

		分類	新規	
モデル児童館	富岡児童館			
あり方の分類	(ウ) 子どもの意見の尊重			
■背景/具体的な内容など	実施時期	5月～2月	参加人数	71人
子どもの意見を尊重する事業として、ドッジボール大会を実施した。 『第1回』 【5月】実行委員を募集し、日程や大まかなルールの話し合いを行った。実行委員会には全員集まれなくても、参加できる人ができることをすると確認した。 【6月】実行委員の新たな希望者や辞退者がいて、変動がある中、準備は進められた。大会告知ポスターや申込用紙を作成し、館内ばかりではなく、委員自ら学校に持参し、広報活動を行った。 【7月】ルール、当日の進行について確認を行った。12日大会実施。 『第2回』 体験ウィークの最終日に大会を行う告知をしたところ、今度は自分たちが大会をやりたいと実行委員を希望する人がいた。やりたい意思を尊重してこども主体で行うことになった。 【1月】告知から大会まで1か月と期間は短かったが、実行委員は広報活動や、大会当日の係決めや進行、ルールについて、話し合いを行い、準備を進めた。24日大会実施。 『第3回』 1月のドッジボール大会時に来月もやりたいとの声を受け、2月に3回目を行った。2回目のアンケートで実行委員をやってみたい人がいたので、3回目参加者募集と同時に実行委員も募集した。 【2月】告知から大会まで期間は短かったので、実行委員会の日程を決め、来れる人が参加するようにした。前回の参加者がルールの改定を求め実行委員に参加した。当日しか参加できない人にも役割を割り振るなど、主となる6年生がうまく進めた。14日大会実施。				

(問い合わせ先)
函館市子ども未来部子ども健やか育成課

〒040-0001 函館市五稜郭町 23 番 1 号
TEL:0138-32-1517
FAX:0138-32-1506